

懐かしい客船たちの解体のニュース

2021.7.7 池田良穂

本日配信された World Ship Society の会誌 Marine News に懐かしい客船の名前があり、いずれも解体のためにインドに到着したことでした。

■1隻は「マルコポーロ」Marco Polo で、その前身はソ連客船「アレクサンダー・プーシキン」Aleksandr Pushkin です。5隻の2万総トン級のライタークラスと呼ばれる客船の1隻で1965年の建造です。この5姉妹船は、主にイギリスやドイツの旅行社にチャーターされて、クルーズ客船として稼働して旧ソ連の外貨稼ぎに貢献しました。このクラスの客船のうち「ショータ・ルスタベリ」には1976年に来日した時に、「タラス・シェブシェンコ」とは1974年に初渡欧した時にコペンハーゲンで出会ったことを懐かしく思い出します。



長崎港に入港する「アレクサンダー・プーシキン」 坂本薰氏撮影



1976-2 神戸港に入港する「ショータ・ルスタベリ」



1973-7 コペンハーゲン港に停泊する「タラス・シェブシェンコ」

■2 隻目は、日本沿海フェリーの「しれとこ丸」で、1972 年に東京と苫小牧間に就航したカーフェリーです。北海道に実家があったので、学生時代に帰省の時によく利用しました。当時の東京のフェリーターミナルは、まだ整備中のなんにもない埋め立て地で、東京駅から送迎バスがでていましたが、荒涼とした中をずいぶんと長く走ったことを覚えています。同航路を引退した後、ギリシアでピレウス～クレタ島間のフェリー「カザントザキス」Kazantzakis として活躍した後、香港ではカジノ船「メトロポリス」Metropolis としても使われました。最後の船名は「ロポリス」でした。日本から離れた後の 1997 年に、「カザントザキス」時代にピレウスからクレタ島まで乗船して、ずいぶんグレードアップした船内に驚きました。最後に出会ったのは 2014 年の香港で、金ぴかの船体が朝日に輝いていました。



1975 年 苫小牧港に入港する「しれとこ丸」



1997 年 10 月 クレタ島のイラクリオン港に並ぶフェリー・客船群。左から 2 隻目が「カザントザキス」。写るすべての船が元日本船です!!





「カザントザキス」の船内。「しづとこ丸」時代に比べてグレードアップした船内に驚きました。



2014年 香港でカジノ船として使われていた「メトロポリス」

■3隻目は、カーニバル・クルーズ・ラインのクルーズ客船「ホリデイ」Holidayです。中古船3隻でカリブ海クルーズを始めたカーニバルが、2万総トンの新造船「トロピカル」を建造した後、大型化に乗り出して、デンマークとスウェーデンの造船所で建造した3隻の46000総トン級船の第1船で1985年に就航しました。この船には乗船はしませんでしたが、カリブ海で何回も出会いました。最後の時の船名は「メガス」Megasのことです。



1988年 マイアミ港を出港する「ホリデイ」。マイアミ港で小型ボートをチャーターして、水路を進む姿を撮影しました。



1994年 マイアミ港に停泊する「ホリデイ」。マイアミ港クルーズターミナルの対岸にある公園からの撮影です。